

令和3年度第3回出雲市地域公共交通活性化協議会議事録

日 時 令和4年3月24日（木）

10：00～12：00

場 所 出雲市役所 くにびき大ホール

出席者 14名

1. 開 会

2. 会長あいさつ

年度末の大変お忙しい中、お集りをいただき感謝申しあげる。また今年度としては今日が最後の協議会となる。この一年、皆様には大変お世話になったことをお礼申しあげる。コロナ禍で交通事情は相変わらず大変厳しいものがある。その中での本日の地域公共交通活性化協議会である。先般の協議会の中でも説明させていただいたが、住民の皆様を対象にアンケートを実施しており、様々な課題が出てきた。また、この協議会の下部組織であるワーキング部会も立ち上がっており、その場で様々な検証を行っているところである。それらの調査結果、あるいは公共交通を取り巻く課題等を説明させていただき、皆様に現状を認識していただいた上で、様々なご意見を頂戴したい。今年度はここまでということになるが、来年度はいよいよ具体的な計画を立てていかなければならない。そういった意味でも、今日は本当に大事な会になる。どうぞみなさま忌憚のないご意見をよろしくお願い申しあげて最初の挨拶とさせていただきます。

3. 協議事項

(1)今年度の実績について

【事務局】 ～資料1について説明～

～意見なし～

(2)公共交通に関するアンケート調査結果（速報）について

【株バイタルリード】 ～資料2について説明～

(3)出雲市地域公共交通計画に関する問題点と留意点について

【株バイタルリード】 ～資料3、4について説明～

【委 員】 前回、地域によって異なった方法でバスを運行しているため、アンケートの内容や方法等、難しいのではというようなことを言ったが、よくまとめられていると感心しているところだ。参考に教えていただきたいが、湖陵、大社、斐川はバスに対する満足度が非常に低い。これはショックである。全体で約3,500通、うち1,524通が返ってきて、43%の回収率だったそうだが、湖陵の場合は何件に対して何%の回収だったのか。

【事務局】 1,492件中湖陵は8.5%の方が回答している。件数で言うと120件くらいである。

【委 員】 これは全体でランダムに3,500件を抽出したのか。全体との人口比で各地域の配布数が決まるのではないのか。わからなければいいが、湖陵では福祉バスが非常に細かく運行している。本当はもっと満足してほしかった。おそらく市内でも一番細か

く運行しているはずだ。以前湖陵の検討会でも発言したが、福祉バスなどのありがたみがわかってないと思っている。だからPRをしてほしい。5, 6年くらい前になるが、車体にもっと大きく「福祉バス」と書いて、100~200m先からでも福祉バスが来たとわかるようにしてほしいと要望したが、実現していない。今朝もすれ違ったがものすごいスピードで通り過ぎ、結局福祉バスが走っているということがわからない。なぜ実現しなかったか私なりに考えたが、タクシー会社が普段ジャンボタクシーとして使っている車だから車体に大きく書くことができず、小さなものを貼って運行しているのだと思う。それはそれでいいが、もっとPRすべきではないか。湖陵も大社も斐川も情けない。この点をについて集中的に改善策を検討していただきたいと思う。いろいろ知恵を出してほしい。

【事務局】 配布数について。ある程度の回答数、最低50はいただきたいということで、3割の回答数があるとして計算し湖陵地域では160~170程度お配りしていると思う。地域の人口割りで「最低このくらいの数が行き渡るように」と考えて配布している。

【委員】 それで8.5%が回答しているのか。

【事務局】 そうです。

【会長】 少し付け加えさせていただく。総合振興計画もそうだが、人口割りでやるといわゆる河南3町等はかなり少ないサンプルになってしまう可能性があるので、率を少し上げさせてもらっている。最低このくらいは欲しいということで配る率を上げ、このような数値になった。本来であれば、人口が少ない地域はもっと少ない数値になると思うが、このグラフからもわかるように多くの方にご回答いただけるような仕組みにした。

それから先ほどPRが足りないというお話があった。確かにそうだと思っている。これはしっかり今後の対策に結び付けていきたいと考えている。

【委員】 2点程、アンケート調査結果についてお尋ねする。

「バス・鉄道で行くことのできる場所に出かける用事がないから」というのがあるが、これは行きたい場所に行けるバスや鉄道がないというふうを受け取ってもいいかということと、3)の市内のバスの満足度の項目の中に、「乗車している時間」というのがあるが、これはどういう意味なのか説明をいただきたい。

【(株)バイタルリード】

1点目については選択肢としてはこういう聞き方をしているが、ご指摘のとおりである。裏を返すと自分が行きたい場所に運行していないと考えられるかと思う。乗車している時間についてはバス路線の長さ、自分の行きたいところにスムーズに行けているか、乗車している時間が長すぎないかといったところの満足度を聞いている。

【委員】 「地域によって異なる人口増減への対応」ということで6ページの下の方に、人口の増減状況で詳細に色分けした図面が載っている。上部の説明の2行目に「特に、地域別では出雲地域や大社地域の南部、斐川地域で人口が増加している一方」と書かれている。しかし、出雲地域もコミセン単位でいえば16地区あり、増えている地区と減っている地区はほぼ半々だと思う。その増え方減り方も色々あるので全く半々というわけではないだろうが、特に出雲地域の南部の方は特に減っているというようなこともある。それから大社地域の南部と書いてあるが、おそらくコミセン単位で言うと1つで、それもそんなに大きな増加ではないと思う。斐川地域ではコミセン単位でい

うと7つあるが、増えているところが3つ、あと4つは減っている。下の地図にはそのように説明してあるということであればそうだが、文字として残す場合は少しそのあたりに触れていただければと思う。よろしく願います。

【委員】 アンケート結果について1点、わかれば教えていただきたい。

資料の5) 出雲市の公共交通の維持・確保についての2つめ、「利便性を向上するための費用負担は～」という説明がある。「基本的には市が負担するが、利用者の負担も現状より増やすべき」が61.7%とかなり高い数値だが、このうち公共交通機関を利用することがないと回答した人の割合がどれくらいあるのか、わかれば教えていただきたい。

【(株)バイタルリード】

まだそこまで確認できていない。今後の分析の参考にさせていただければと思う。

【委員】 鉄道もバスもだが、資料2の「行くことのできる場所に出かける用事がないから」にかなり引っかかった。商業施設に入る路線もあり、また今後そういったところは路線の整理等で利用が向上すると思うが、現状は商業施設であればバスを利用されなかった場合、タクシーなどを利用して行かれるということか。公共交通の計画ではあるが、あらゆる交通手段を活用して市民の方の移動手段を確保するということが大切である。タクシーも公共交通の色合いが濃いので、計画を検討するときはタクシーの活用も考えていただきたい。全国的にタクシーの空白地域も出ており、大きな課題になっているのでぜひそこはよろしく願いたい。

【事務局】 タクシーも公共交通の役割も担っていると我々も十分認識しているので、どの程度こういった視点で入れるかということも含めて今後計画の中で考えさせていただきたい。

それから、「行くことのできる場所に出かける用事がない」というところにかかなり違和感があるということについて、アンケート調査の項目はこのようになっているが、最終的に注釈をつけたり、もう少し誤解のないような表現にするなど、皆様方と一緒に検討させていただきたいと思うので、よろしく願いたい。

【委員】 資料3の4ページの「利用が少なく非効率な路線の存在」で、左の下に行くほど非効率であるという説明だった。佐田地域で運行している生活福祉バスも、4区画のうちの下の方の方に多く集まっていると思っている。

こういった路線について今後検討していく必要があるという説明だったが、その辺りの方針について、考えを聞きたい。

【事務局】 本日お示ししたものは、あくまでも現状をわかりやすく提示したもので、今後この課題にどう向き合っていくかということについては、皆様方にご意見をいただきながら、今後の検討の中で考えていかなければならない。即廃止、見直しといった後ろ向きな方針で行くということも、まだ決まっていない。もう少し合理的な方法はないか、運行のあり方としてもバス停で人を乗せるような形のままでいいのか、といったことも含めて、改善できるように検討したい。

【委員】 ぜひ前向きな改善をしてもらうようお願いしたい。

前回も話したが、人口が非常に減少し、高齢化も進んでいる。あわせて、社会インフラも減少してきている。

高齢者は健康寿命を保つために軽い段階から医療機関にかかり、重症化をしないよう定期的に通院している。病院や診療所などの先生も高齢化して後継者も少ないのが

悩みのひとつだ。

高齢者も、高い運賃を使って出雲地域中心部に行きたいわけではない。地域内にかかりつけ医があって安価に行けるのであれば、それに越したことはない。佐田は35%近く人口が減っている。住民が全く努力もせず減らそうと思って減らしたわけではない。合併以来の行政の施策の結果、周辺地域と中心部で二極化する状況が生まれたということ、皆さんにも理解いただきたい。活力ある出雲市を維持するために、こういった状況が生まれてきている。周辺部は苦勞していることを中心部にも理解してほしい。バス停や駅から500mといった基準の話もあったが、佐田地域は面積が100km²と広く、出雲市の17%を占めている。そして、その90%が山地である。平坦な500mと急峻な500mでは負担も大きく違う。買物の場合は、行きは手ぶらで下りだから楽だが帰りはそれを背負って帰らねばならないという状況が普通の生活の中にある。そういった点も公共交通のありかたについての資料に収めていただければありがたい。

【事務局】 たくさんのご意見、ご提案をいただいた。ご指摘の通り人口減少は佐田地域に限らず、どの地域でも課題のひとつで、大きな問題になっていく。公共交通がどのような役割を担うのかということもあるが、やはり全体的なまちづくりの中で人口減少にどう歯止めをかけるか、ということを考えるのが自然である。500mの件も参考にさせていただきたい。

ワーキング部会でも職員が様々な視点で同じような問題を共有している。先ほどのご意見等共有しながら、今後の解決策の検討を進めて参りたい。今後ともよろしく願います。

【委員】 地域の関係については様々なことがあるが、合併からかなり経つので一旦は統一した数値で示さないといけないと考えている。現在総合振興計画も策定しているところで、議会も交通の関係で様々な検討を重ねているが非常に難しい問題である。

地域の事情も全く異なる。コミセン単位の状況をしっかり把握する必要があると思っている。

公共交通の関係で言えば、一畑電車が毎年出しているように、福祉バス、生活バスその他の路線バス、または観光関係の各種路線について、地域ごとの利用者の種別や目的等のデータがあれば是非出していきたい。地域ごとにどのような対策が打てるかということもだが、利用者によっては担当課が異なることもある。「採算が合わないから公共交通として行政が確保しているのだ」という意見もあるが、採算ベースで考えられない部分と、観光分野のように先々を見据えて採算ベースで考え、投資が必要な部分がある。エリアごとにそういったデータを出してもらえれば、今後の政策検討にもつなげやすいと思う。

【事務局】 こちらが集めた資料の中ですぐそれができるかどうかも含めて、一度こちらで検討させていただくので、少しお時間いただきたい。

【委員】 委員のお話はもっともだと思う。

バスの利用はお年寄りの通院、買物、学生の通学で、それ以外はほとんどマイカー利用である。今度、平田地域内の小学校が合併してスクールバスに乗るようになってしまって、それまで使っていた一畑薬師線に乗らなくなった。すると対応が1の「地元周知」から2の「見直し協議、改善に向けた取組」に変わった。地域で協議をすることを考えているが、話をしてもなかなか解決法がなく、最終的には廃止されても仕

方がないのではないかという話まで出ている。逆に、地域の人たちの利用目的に合うように、地域と一緒に考える必要があるのではないか。市内と郊外でも利用目的が全く違うので、分けて考えていくべきである。

【委員】 私が居住している出雲地域北部は人口が増えているが、様々な会議で人口減少の話が出ている。しかし、人口が増える方も大変である。今までの地域割りは本当にこれでいいのだろうかを考える。会議にでも、わが地域のことはある程度わかるが、出雲市全域のことはよくわからない。例えば様々な公共交通機関があるが、それらがどういうふうに動いているのか。10ページのスクールバスの図を見てもどこがどう重複しているのか、不要なスクールバスが走っているのかわからない。見づらい色使いで、図も小さすぎる。様々なことが網羅された見やすい資料があれば、総合的な判断ができるのではないか。様々な問題点があることはよくわかっているが、具体的なことはよくわからないのもっとわかりやすい資料がほしい。

【株バイタルリード】

スクールバスと路線バスの重複のところが分かりづらいということで、申し訳ない。緑色の線はスクールバスと重複している路線のみを抽出して引いている。それに対して黒い実線と黒の点線を重ねていて、例えば佐田地域でいうと混乗スクールバスの実線と緑の線が重なっているが、大社地域や平田地域では専用スクールバスの点線と緑の線が少し重なっていることがわかる。重複している区間があるということをごちらの図で示している。見にくくて大変申し訳ない。修正の上、改めて送らせていただく。

【会長】 佐田地域では、路線バスとスクールバスが混乗となっている。一方で大社地域や平田地域の一部は同じ区間を路線バスとスクールバスが別々に走っているという意味である。

【委員】 現状どうしても地方のバス路線は非常に苦戦しており、満足度は高くはない。バス事業者として、できることとできないことがある。できることについては、できるだけ努力していきたいと思っている。また地域のみなさんの移動満足度を高めるためにはバスや鉄道、電車、それ以外の交通手段など様々なものを組み合わせ、可能な限り最適なものを作り上げていくしかないと思っている。

【委員】 コロナ禍という非常に厳しい状況の中、コロナ前に比べて40%くらいの乗車収入という状況である。とはいえ、コロナから回復した時点でしっかり対応できるよう、様々な意見を聞きながら今後も対応していく。よろしく願います。

【委員】 地元の利用者の立場で話が進んでいくのは当然だが、一畑電車は他方で観光客の利用も混ざっている。弊社の場合、利用者数で見れば全体の約6割が地元の定期券利用者である。ただ収入で見ると、約6割が、観光客を中心とした定期券以外の利用者から得ている。弊社の事業は、地元の利用者と観光客が半々で維持できているということである。公共交通の維持という部分では、路線によっては観光客の取り込みも検討する必要があるのではないか。観光客が多い出雲大社前駅では、須佐神社や日御碕への行き方をよく尋ねられる。また松江の方では休日に一畑薬師までの行き方をよく尋ねられる。観光客の取り込みが実現しにくい交通手段もあるだろうが、そうすることによってみなさんの通常の生活路線を維持する方法を導き出せるのではないか。

生活バス、福祉バス、4条路線バスも含めて、接続の問題は必ず出てくる。松江まで運行しているので、どうしても松江方面の話も入ってくるが、全てにおいて100点を導き出すのは難しく、今年度10月のダイヤ改正時に対応が遅れて十分な

情報提供ができなかった。今後はこの反省点も踏まえて取り組んでいきたい。

【委員】 観光の二次交通が課題だということは認識している。資料の11ページに書かれているとおり、既存の公共交通で周辺部の観光スポットに行くのは大変難しい。須佐神社等への行き方を聞かれるが、説明すると断念されることが多いというのが実情である。いつ、どれくらいの人数で来るのかわからない観光客のために路線を増やすのは難しいかと思うが、検討していくべきかと思う。既存の路線バス等ではすぐに対応できないということもあり、観光協会では昨年からは出雲市内で周遊タクシーも始めている。ただタクシーは単価が高くなるので、来年度は周遊バスも検討している。全国の事例を調べてみたところ、淡路市について、公共交通はバスしかないが、生活バスを観光客も利用できるようなシステムを作っていると書かれていた。参考になればと思う。

【副会長】 アンケート調査結果からもわかるように、斐川地域は非常にバスの満足度が低い。実はあまりバス等が運行していないのでこの結果になっていると思う。斐川地域では旧斐川町時代からまめながタクシー制度とあって、特に高齢者等に対して乗合タクシーによる代替え輸送環境を構築している。玄関口まで来てくれるし、行先も以前は病院等に限っていたが、ショッピングセンターや鉄道駅などにも広げており、利便性を高めている。そうした面でも、ひとつの方法ではあるかと思う。一方、他地域へ移動できる公共交通としてJRがあるが、バス等はないので観光客、学生、その他一般の利用者については少し捕捉がいる部分もある。高齢者と一般利用者にどのように対応していくかという点について、斐川方式というのは特に周辺部について多分一定の効果があるのではないかと思う。

ともあれ車社会なので、島根県においても自家用車の比率は非常に高い。どうしてもそちらの方に流れていく。従って公共交通はなかなか利用が無い。民間の事業だから、当然サービスを落としていくという悪循環が起きている。いずれにしても高齢化社会がやってくるので、そうした中で具体的な出雲市の公共交通体系をどう作るかということが重要である。

【会長】 委員の皆様から非常に沢山のご意見を頂戴した。また提案もいただいた。

さまざまな大事なキーワードが出てきたと思う。委員が言われたように採算だけの問題ではない。行政としてお金をかけてでも実施する必要がある部分もあるが、しっかり受益者負担を取るべきところは取るということが大事である。地域からお出かけの委員からは、地域独特の事情があってそれらを解決したいという思いも聞かせていただいた。事業者、観光関係の皆様からもそれぞれの立場でご意見を頂戴した。今回の計画について細かいことをすべて書くのは難しい。アクションプランはそのあと検討することになる。最初に話したようにすべて一気に解決するのは厳しいかと思う。できるところから優先順位をつけて少しずつ年次的に解決していきたい。もちろん経費的なところもしっかり考慮しなければならない。

副会長も言われたとおり、車社会である。車がある人優先ではなく、当然のことながら車がなくて移動に困っている人優先で考えていかなければならない。まずは高齢者や学生について検討すべきだと思う。今年度はこれで終了だが、来年度はいよいよ具体的な方向性をしっかり示していかなければならない。委員の皆様には引き続きお願いしたい。

【事務局】 多くの貴重なご意見をいただきました。具体的に資料の作り方についてもご指摘をいただいたのでそれらを参考にさせていただきながら、今後再度詰めていきたい。

4. その他

来年度のスケジュール

【事務局】 ～資料5について説明～

次回…4月28日（木）午前中

5. 閉 会

【副会長】 出雲市には市営バスもなく、現在の公共交通は合併前の継承ということで、どうしても様々な見直しが必要である。本日も専門業者からあったアンケートの調査結果や問題課題等の整理は一定の理解を得られた。

これをもとにしてより良い制度作りをこれからも共に励んでいければと思う。